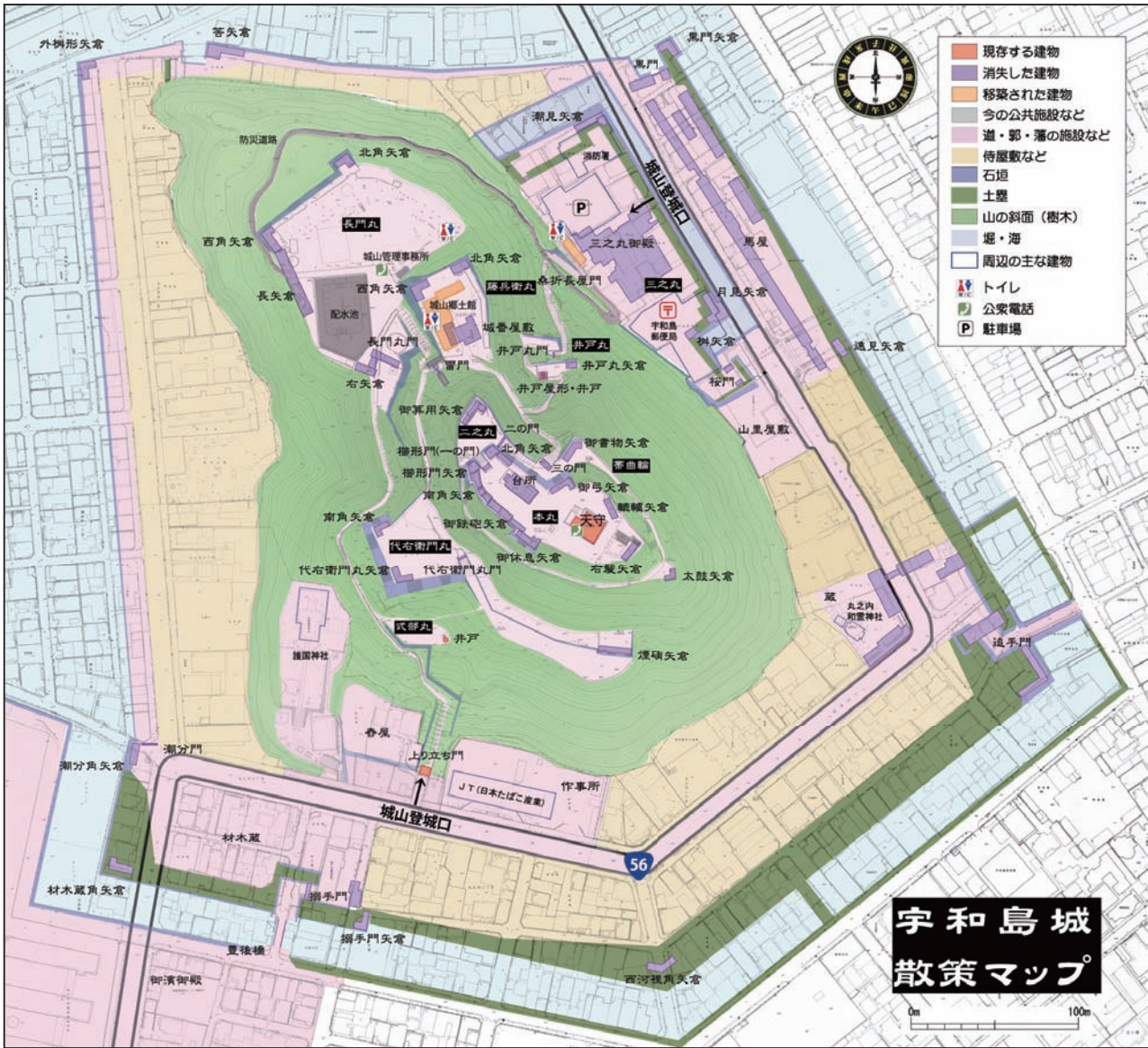


三之丸跡の石垣修理がメインとなります。三之丸は明治以降、市街地化されてしまい、宇和島郵便局裏にある高さ約3m、長さ50mの石垣が現在目にするものの出来る唯一の遺構となります。この石垣は、代右衛門丸跡で見られたものと同様の、幅が1mを超えるような大きな石、“大平石（鏡石）”を所々に配置する宇和島城内では最古段階の“見せるための石垣”ですが、その前面に創建当初には御殿が建てられていたことと深く関係していることが推定されます。

修理面積は、立面積で125㎡を計画しており、ほぼその全面が対象となります。今年度はそのうち約100㎡の工事、夏ごろから手がける計画です。平成14~16年、そして昨年度に修理を行うための発掘調査を石垣の上面を中心に実施していますが、非常にたくさんの陶磁器、しかも17世紀初頭頃の珍しいものばかりが出土しています。往時、石垣上面には矢倉などの建物等は、絵図や発掘でも確認できていないので、どうして多量の陶磁器が出土しているのかは今のところ謎で、その解明に向けて調査中です。それらの成果も工事現場と併せて、年度内に皆さんに公開する予定です。改めて、ご案内いたしますので、是非足をお運びください。



発掘調査の終了した三之丸跡



宇和島城
散策マップ

平成20年度 宇和島城保存整備事業

代右衛門丸跡石垣崩落現場から学ぶもの —宇和島城の石垣と樹叢を考える—

1. 代右衛門丸跡について

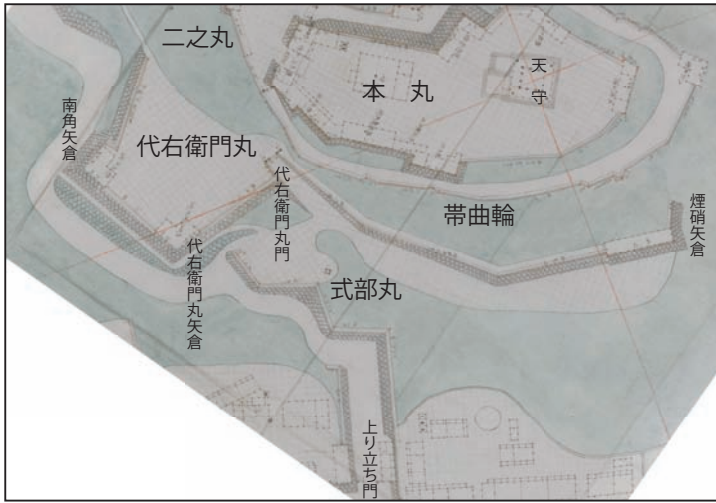
代右衛門丸は、上り立ち門からの追手道筋からすると式部丸とともに最前線の曲輪となります。3つの矢倉（代右衛門丸矢倉・南角矢倉）と門（代右衛門丸門）があったようです。まだ本格的な発掘調査は実施できておりませんが、それらの礎石の遺存状況はある程度視認できます。この郭より上に上がるには非常に細い道しかつけられておらず、有事の際にはこの郭に敵を誘導し、味方もろとも上方の二之丸や帯曲輪から攻撃によりせん滅することを意識して造られたものとも考えられます。

2. 代右衛門丸跡の石垣について

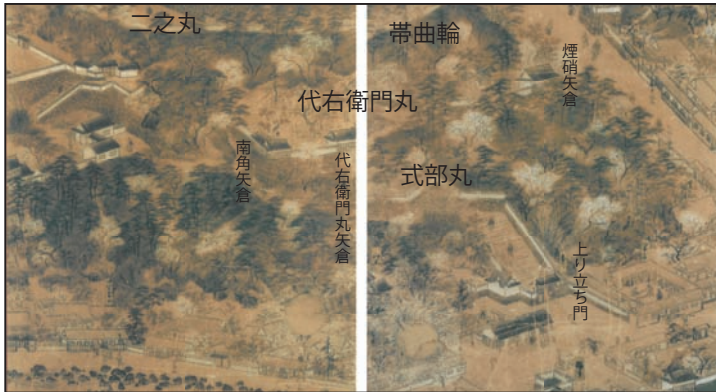
代右衛門丸跡の石垣は、江戸初期と幕末（嘉永4年（1851）前後）の新旧石垣が一度に見られる非常に稀有な場所です。その構造的な特徴から代右衛門丸門をはさんで、西側と東側で大きく二つに分けられます。

まず西側の石垣ですが、最高部で約14mをはかり、城内では最も高いものとなります。勾配は3分から5分勾配（1mあがったところで0.3~0.5m内に入る、約60~70度）で、南角矢倉下の隅角部の算木積みの積まれ方は、非常に古い様相（江戸初期）を呈しています。登城道に面する西面から南面の約半分まではほとんどが自然石が用いられた古式の様相を示していますが、南面半分から式部丸側の東面は加工石（割石）が用いられた新しい様相（幕末）を呈しています。

次に東側ですが、高さ約4m程度で勾配は1分から2分（約80~85度）のほぼ直立しているといってもよいぐらいのものです。鋭角になるような隅角部はなく、鈍角となる鈍角をなしています。代右衛門丸門から下って最初の鐔の辺りまでは加工石（割石）が使われた新しい様相（幕末）のもので、それより東側は自然石、しかも幅が1mを超えるような自然石“大平石（鏡石）”が多用された古い様相（江戸初期）の“見せる石垣”となっており、このような石垣は他の城ではなかなか見ることの出来ない希少且つ貴重な石垣となります。



■宇和島城絵図（代右衛門丸周辺） 正徳元年（1711）
財団法人宇和島伊達文化保存会蔵



■宇和島城下絵図屏風（代右衛門丸周辺）
元禄6～8年（1693～95）推定

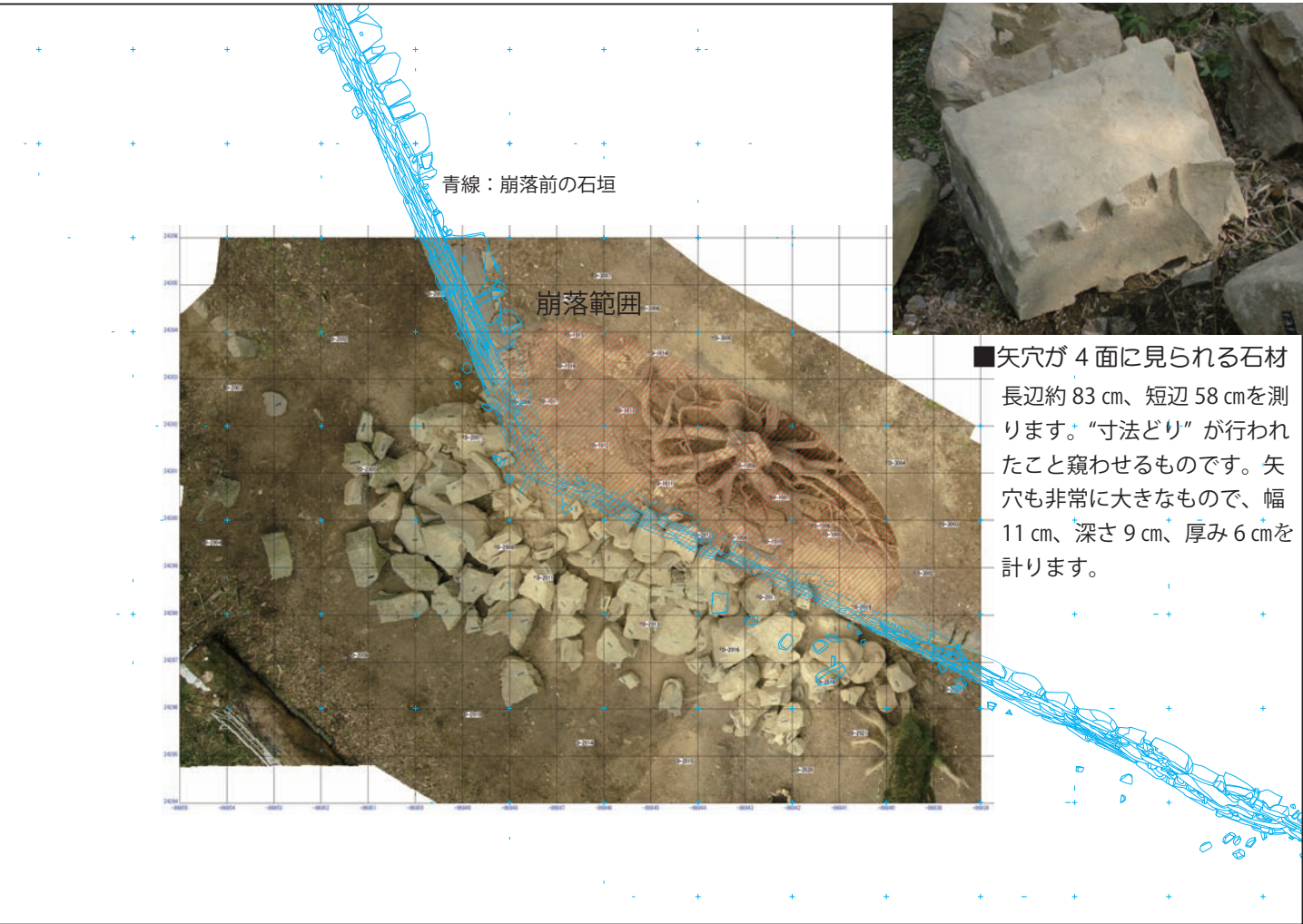
宇和島市立伊達博物館蔵

3. 崩落現場について

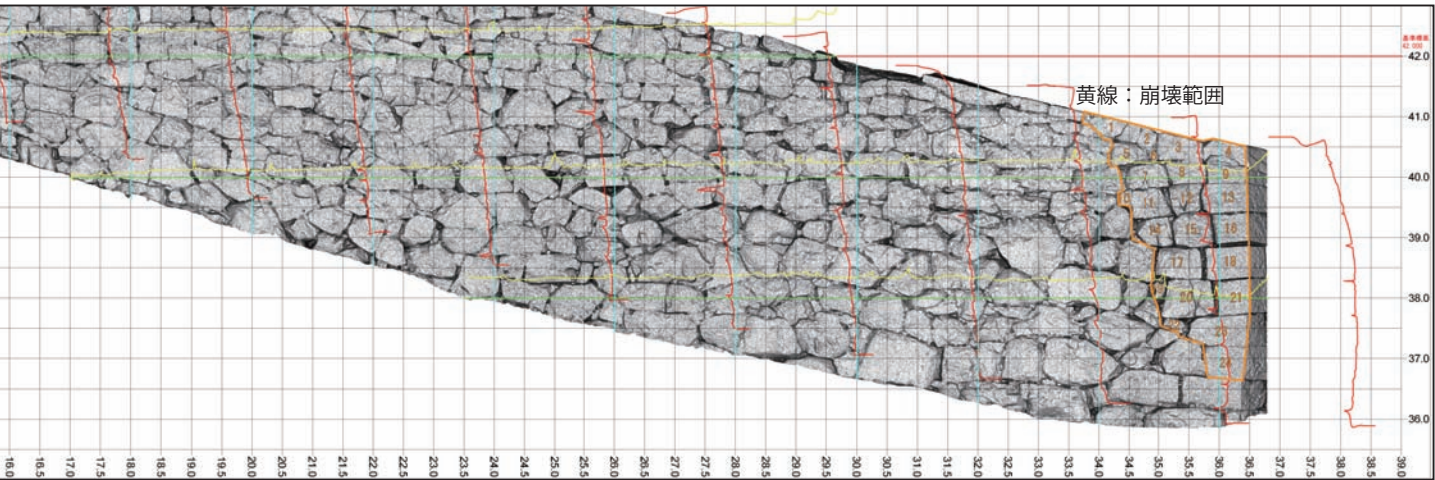
今回崩落した現場は、東側石垣の古式と新式が切り替わる鎬角を中心とした約 40 m²（立面積）が崩落しました。その崩落を発見したのは平成 18 年 7 月 14 日ですが、特に地震などがあったわけではなく、自然的な要因を考えるとすれば、梅雨時期の風雨と上面に大きく伸長したクス（幹周約 2 m、高さや約 15m）の根方の影響はあったかと考えています。またかねてより石垣法面の前面への孕み出しが認められていた箇所、石垣本体の構造的な問題もあったと想定しています。

今回の崩落現場では約 150 石の石材がありました、その同定調査で約 9 割は元の場所が特定できましたが、崩落の際に粉砕されてしまったものもあり、残り 1 割は特定できませんでした。また今回の同定調査において非常に大きな矢穴をもつ石材が複数個確認しており、今まで江戸初期と幕末の 2 時期を想定していましたが、江戸前期頃にも改修を受けている可能性があることが判明しました。

■ 崩落現場周辺の平面図及び写真図



■ 崩落現場周辺の石垣図 1



1. 崩落前の状況



3. 石垣上面（天端）のクスの根方



2. 崩落状況



4. 石材整理後の状況

■ 崩落現場周辺の石垣図 2

